

## 懺悔で芽生えた母への感謝

モンゴル・ウランバートル支部  
ムンゲンツェツェグ・アマラハヤスガランさん

2014年、アルコール依存の母が酒代欲しさにアマラさんの財布からお金を抜きとった。日頃からお酒を手放せない母を見かねていたアマラさんは、怒りを抑えられず母に手を上げて罵倒してしまった。罪深い行為と認めながらも、謝罪することも、誰に相談することもできず苦悩していた折、仏教と出会い、2020年4月に来日。仲間とともに学びを深めていく中で、いまここにあるのは、ご先祖さまや母がいのちをつないでくれたことに気づく。一つひとつのできごとが、いまにつながっていると思うと、母への感謝が胸にこみ上げてきた。そしてまずは自分が変わる一歩として、母とのことを仲間へ懺悔した。それを聞いた皆がアマラさんの苦しみに寄り添ってくれた。そして、約7年越しに謝罪できた。現在は帰国、母とともに暮らすアマラさんは、「これからは仲間がしてくれたように、私が母に寄り添っていく」と心に決めている。



## ほんとうの自分を生きる——精進②

地表に立つ私たち一人ひとり、それぞれが地球の中心に立つ絶対の存在です。ただその個人も、太陽や水や空気を含むすべてのものごとと、自分以外の人によって生かされていますから、その意味では全体で一つといえます。この見方は、宇宙全体に広げても、また地域社会や家庭という小さな集合体においても一緒です。お父さんが中心で子どもは端（はし）ということはなく、一人ひとりとは唯一無二の絶対といえる存在であり、その個々人は家族や地域の人たちとのご縁のなかで、生かされあつて存在しています。積尊（せきそん）がいわれたときされる「天上天下唯我独尊」という言葉は、このことをさします。大きな全体とともに生きる、絶対的な一人ひとり。それが「唯我独り尊（ひたと）」の意味です。一方で、この宇宙に住む一人の宇宙人、地球人として、だれもが「一つの『いのち』をともに生きる兄弟姉妹」というのが、仏教で教える私たちの真実（まこと）の相（すがた）なのです。六波羅蜜（ろくはらみつ）の精進（しやうじん）は、そのように生かされていることに感謝し、「おかげさま」の心を忘れないための実践です。その実践をとおして、自分を尊び愛するように、人の悲しみをともに愛（な）しみ、苦しむ人（ひと）にいつでも手を差しのべられる人になるのが、精進（しやうじん）することの深意（しんい）だと私は思うのです。

## 立正佼成会